

L'OPERA

ソプラノ(蝶々さん):大岩千穂 テノール(F・Bピンカートン):笛田博昭 バリトン(シャープレス):黒田 博
メゾソプラノ(スズキ):牧野真由美 ソプラノ(ケート・ピンカートン):佐藤路子 蝶々さんの子供:甘利直花 ピアノ:河原忠之
協賛:  王子ホールディングス株式会社 MOA美術館 MOA MUSEUM OF ART
後援:公益財団法人 東京二期会 NPO法人 日本声楽家協会(日本声楽アカデミー) 協力:大岩千穂後援会
舞台監督:アートクリエーション 堂本 純平 字幕制作:  Zimaku
衣裳製作:オートクチュール・コスタブランカ/デザイン KIYOSHI YAMAMOTO www.costabianca-ky.com
Special Thanks:紀尾井ホールの方々 高梨勝也様 長澤正勝様 村田英子様 伊江昌子様 岡本由佳里様
グラフィックデザイン:大橋 修(thumb M)
Special Collaboration:Chiho Project(Opus.7東北復興支援実行委員会) 釜石ガス株式会社
スクラム釜石 www.scrumkamaishi.jp 

L'OPERA

ENCHANTED *by* BEL CANTO

GIACOMO PUCCINI

OPERA

MADAMA BUTTERFLY

大岩千穂

ベル・カントに魅せられて

ジャコモ・プッチーニオペラ「蝶々夫人」

L'OPERA コンサート 2012年11月26日(月) 紀尾井ホール
主催 Opus. 7

字幕付き

L'OPERA

ソプラノ(蝶々さん):大岩千穂 テノール(F・Bピンカートン):笛田博昭 バリトン(シャープレス):黒田 博
メゾソプラノ(スズキ):牧野真由美 ソプラノ(ケート・ピンカートン):佐藤路子 蝶々さんの子供:甘利直花 ピアノ:河原忠之
協賛:  紀尾井ホールディングス株式会社 MOA美術館 MOA MUSEUM OF ART
後援:公益財団法人 東京二期会 NPO法人 日本声楽家協会(日本声楽アカデミー) 協力:大岩千穂後援会
舞台監督:アートクリエーション 堂本 純平 字幕制作:  Gimaku
衣裳製作:オートクチュール・コスタブランカ/デザイン KIYOSHI YAMAMOTO www.costabianca-ky.com
Special Thanks:紀尾井ホールの方々 高梨勝也様 長澤正勝様 村田英子様 伊江昌子様 岡本由佳里様
グラフィックデザイン:大橋 修(thumb M)
Special Collaboration:Chiho Project(Opus.7東北復興支援実行委員会) 釜石ガス株式会社
スクラム釜石 www.scrumkamaishi.jp 

L'OPERA

ENCHANTED *by* BEL CANTO

GIACOMO PUCCINI

OPERA

MADAMA BUTTERFLY

大岩千穂

ベル・カントに魅せられて

ジャコモ・プッチーニオペラ「蝶々夫人」

L'OPERA コンサート 2012年11月26日(月) 紀尾井ホール
主催 Opus. 7

字幕付き

『武士の娘 蝶々さん』を今に生き続けさせる 偉大なマエストロ プッチーニ

オペラ『マダム・バタフライ』

この作品が日本の長崎を舞台にしているため、日本人の観点から言えば首を傾げる箇所も多々あります。海外の公演ではそれほど指摘されない演出も日本の観衆を対象とする公演ではそうはいきません。しかし、たとえ演出を完璧に整えたとしても、プッチーニの音楽に見事にはまるとも限らないのがこの作品の難しさでもあります。なぜなら、作品の原作者も、脚色家もオペラ台本家も、作曲家も誰一人として実際に日本に来たことはないからです。にもかかわらずプッチーニはこれほどまでに、開国間もない「日本と日本人の倫理観を描きたい」と想い、そして実現してくれたことに感謝と喜びを感じます。それは彼に日本についての情報を伝えた人々のおかげでもあります。やはり、そこにはプッチーニの豊かな感受性、空想力、創造意欲そして楽譜として表現する才能が今の私たちに深い感動を与えているのだと想っています。

当時、『日本人としての誇り』を、プッチーニは、どのように感じ、受け取ったのか。今、もしプッチーニが生きていたら、私たちに何を語るのでしょうか？ そんな想いも抱きながら、私はこの作品と向き合っています。

モノや情報があふれるこの時代に生きる私たちが、実は人間のイマジネーションの力に支えられているということを再認識したいと思っています。

今宵はひと時、どうぞ外部からの情報の扉を閉じていただき、「はるか遠くの未知の国日本に思いをはせつつ登場人物一人ひとりに息吹を与えたプッチーニの傑作」に浸っていただきたいと思います。そして、彼が私たちに一番伝えたかったメッセージをお客様一人ひとりが受け取っていただけたら幸せです。

私のこの想いに共感し励まし、応援くださる多くの先輩方、仲間、そして、今宵この会場に足をお運びくださったたくさんのお客様に心から感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。ありがとうございます。

2012年11月26日 紀尾井ホールにて

大岩千穂

歌劇「蝶々夫人」(あらすじ)

舞台は長崎、眼下に港を見下ろす丘の上にある家屋と庭園。明治末期、米国は南北戦争後の発展を力に海外に進出し列強の仲間入りを果たし、米国艦隊の海軍大尉ピンカートンは日本に上陸したときに結婚周旋人の斡旋で15歳の蝶々さんと結婚することになる。

第1幕：ピンカートンはこの家を999年の期限で借りたが契約変更はいつでも自由と軽薄な調子で説明する。米国領事のシャープレスは「君は本当に蝶々さんを愛しているのか」と問うと彼は「恋か気まぐれかはわからないが彼女の純真さに惹かれ、蝶のような彼女の羽を傷つけても捕えたいという情熱に駆られる」と答える。領事は「彼女が一昨日領事館を訪ねてきたが私は彼女の誠実で純真な愛情にうたれた。君はこの結婚をもっと真面目に考えないといけない」と忠告するが、彼は全く意に介さない。

蝶々さんが「海にも山にも春風が」と幸せを謳歌しつつ坂道を登って登場する。本日の公演はこの「蝶々さん登場の歌」で始まる。蝶々さんの歌声は徐々に愛の気分を高めていく。素晴らしいプリマ・ドンナ登場の場面である。ピンカートンは彼女をやさしく迎え米国領事のシャープレスも加わる。彼女は15歳であり家は裕福だったが父が死んで没落し家族を養うために芸者になったことなどが「越後獅子」の旋律にのって歌われる。やがて婚礼の準備が進む中で、蝶々さんはピンカートンに昨日教会にいった彼の宗教であるキリスト教に宗旨替えをしてきたことをそっと打ち明ける。ピンカートンは彼女のこまごました持ち物の中にある細長い箱は何かと問うが彼女は大切なもので大勢の人がいるところでは答えられないと言う。そこにはミカドから彼女の父親に対する切腹を命じた勅令が入っていたのだ。婚礼がおこなわれた後、彼女の叔父で僧侶のボンゾが蝶々さんの改宗を知り血相を変えて怒鳴り込み親類一同は蝶々さんと縁を切ってしまった。二人きりになるとピンカートンはやさしく蝶々さんを慰め、彼女は皆に捨てられ独りきりになったけれどとても幸せと歌う。やがて夕闇が迫り愛の気分が盛り上がっていく。ここで二人は美しい旋律にのり長大な「愛の二重唱」を歌い始める。（休憩）

第2幕：それから3年後、今日も港を見つめながら蝶々さんは出航していったピンカートンの帰りを待っている。ずっと仕えてきたスズキはお金も底をつき彼が

帰らないと悲惨なことになると心配するが蝶々さんは絶対に戻って来るとスズキを説得する。スズキは疑いを拭いきれない。蝶々さんに「帰ってくると言いなさい」と強要されたスズキは「お戻りになりますわ」と言いながら泣き出す。ここで蝶々さんは「おまえは信頼が足りないわ」と言い、このオペラ中で最も有名なアリア「ある晴れた日に」を歌いだす。このアリアはピンカートンの帰る時の情景を彼女がスズキに聞かせながら自分自身の心を慰める情感に満ちた歌である。そこにシャープレスがピンカートンからの手紙をもって現れる。蝶々さんは夫からの手紙と知り喜んで領事に次々と話しかける。まるでわざと喜びを後回しにするかのように。領事はピンカートンの手紙を蝶々さんに読み始める（「手紙の二重唱」）が、その内容に一喜一憂する彼女の純情さに最後まで読む勇気がない。彼が当惑しながら「もし彼が帰らなかったら？」と聞くと蝶々さんは「芸者に戻るか、死ぬかの一つ」と答える。蝶々さんは奥に入るとピンカートンが出航した後に生まれた金髪の男の子を抱いて出てきて、この子が待っていることを彼に伝えて欲しいと領事に頼む。彼女は子供に向かい「この人は雨の日も風の日も町にでて哀れみを、歌い踊れというのが、そんな辱めを受けて生きるより死ぬ方がよい」と悲痛に歌い子供を強く抱きしめる。

港に礼砲が轟き入港した軍艦があーのリンカーン号とわかると、蝶々さんは愛の勝利だと喜びスズキと庭の花々を部屋一面に撒いて夫の帰りを待つ。夕日が落ち、静かな夜が訪れる。蝶々さんは美しい姿で彼を待ちたいと身支度を整える。子供にも同様に。そして港に向かって座り夫を待つ。やがてこの3年の苦悩を洗い流すかのような優しい旋律が遠くから聴こえ、夜の帳が降りる。

夜明け。一睡もせず待ち続ける蝶々さん。目を覚ましたスズキに旦那様が到着したら起こすので少し休むよう促され蝶々さんは子供をあやししながら奥の部屋へ。まもなく誰かが扉をたたき音がする。そこにはピンカートンとシャープレスが立っていた。スズキはピンカートンに蝶々さんがこの三年間どんなにあなたの帰りを待っていたかと話す。外に物音がしスズキが出てみるとピンカートンのアメリカ妻ケートが立っていた。二人はスズキに助力を求めたくてこんな時間に訪ねてきたと言う。ピンカートンは後悔の念にいたたまれなくなり「さようなら、愛しい住処よ」と言い残し立ち去る。ケートからも蝶々さんに話し子供を任せて欲しいと頼まれスズキはこの辛い役目を引き受ける。そこに蝶々さんが夫の帰宅と思い喜んで入って来てあたりを見回すが領事を認めるだけで夫は見当らない。まもなくケートの姿を見つけ「あの方は誰？私に何の用があるの？」とシャープレス

を見つめるとスズキが泣き出し、彼女はいまや全てが終ってしまったことを悟る。シャープレスは彼女に子供の将来の幸福のため彼を手放すよう促し、ケートもそうして欲しいと頼む。蝶々さんは苦悩の中で、言葉を選びながら威厳をもって「あの方にならお渡しすることができます。半時間後に丘を登って引き取りに来て下さい」と言う。二人が退出すると蝶々さんはスズキに外が眩しいので障子を閉めて欲しいと言ってから坊やはどこかと問いかける。遊んでいると答えるスズキにお前も一緒に遊んでやっておくれといいつける。彼女を案じて泣くスズキを無理に立ち去らせると、蝶々さんは短刀を手にし、鞘から引き抜くと低い声で亡き父の遺訓が刻まれた文字を読む。―「誇りをもって生きられない者は誇りをもって死ぬ」―短刀を喉に当てた時障子が開きスズキが子供を母親の方に押しやる。子供は両腕を上げ母親めがけて走りこんでくる。蝶々さんは短刀を取り落とし、子供に駆け寄りしっかり抱きしめ最後の別れのアリア「私の愛しい坊や」を歌う。そして子供に『さあ、遊んでらっしゃい』と声にならない声で言い、わが子の背中を押す。

蝶々さん ―― 15歳。暮らしを支えるために芸者となり、ピンカートンとの結婚に将来の幸せを信じ、そして彼の子供を身籠る。登場人物の内てただ一人、この「結婚」を神聖なものと感じた蝶々さん。純粹であるがゆえに、彼女の最期は、武士の娘としての誇りを守り、そして子供の将来のために自己犠牲をいとわない気高い母の姿でもある。

F・B・ピンカートン ―― アメリカ海軍大尉。25才くらい。「港々に女あり」と豪語する自称プレイボーイ。きれいな花は折られるためにあると信じている。蝶々さんとの「結婚」は勿論日本的な洒落たお遊びの一種との考えで、実際の結婚はアメリカの白人女性とするのだと最初から決めている。

シャープレス ―― 長崎駐在のアメリカ合衆国領事。50歳前後の紳士。アメリカ人でありながら日本文化に興味を持ち、外交辞令を超えて常に日本人を尊重し、尊敬する態度を示している。長年の日本滞在の間に、日本人の物の考え方や日本の風習・習慣を理解している。ピンカートンとは異なり、一人の人間として蝶々さんを精神的に愛している彼は、アメリカ人の良心の象徴とも言える。

スズキ ―― 20代半ば。彼女は元々は花街において蝶々さんの少し年上の朋輩であった。年季(娼家に奉公する期限)が明けた後、よい条件の「結婚」をした蝶々さんの話し相手兼女中として蝶々さんに仕えている。蝶々さんより少し世間に明るく常識もある程度わかまえているので、ピンカートンがアメリカに帰国したにもかかわらず、彼のこの家への帰宅を信じきって少しも疑おうとしない蝶々さんにたいへんな歯がゆさと不憫さを感じている。ドラマトゥルギー上では、表面に現れてこない蝶々さんの心理の影の部分映し出した鏡像としての役割を担っている。

ケート・ピンカートン ―― 年齢は22,3才。アメリカ美人。若さのうちにも貴族を備えている。幼く見える蝶々さんに無責任な自分の夫の子供を育てられることなどは出来ない自分ひとりが我慢しさえすれば蝶々さんも幼い子供も幸せになれると信じている典型的アメリカ婦人。だから子供を引き取りアメリカ人として育てると言う。そのことが蝶々さんを決定的に死に追いやることになるなどとは夢にも想っていない。

蝶々さんの子供

※本日のコンサートでは時間の制約上一部の登場人物の歌唱が一部又は全部省略されています。



大岩千穂 Chiho OIWA (ソプラノ)

国立音大卒業。江副育英会、五島記念文化財団の奨学生としてミラノ留学。ヴィオッティ音楽院を首席卒業。フラヴィアーノ・ラボー国際声楽コンクール（伊）第1位。

ヴェルディの声国際コンクール入賞。第1回国際オペラコンクール in Shizuoka 最高位および三浦環賞受賞。01年文化庁在外派遣研修員としてイタリアで研鑽を積み、オペラ「椿姫」ヴィオレッタでイタリアデビュー。サンタ・マルガレーテン・オペラ・フェスティヴァル（奥）「カルメン」のミカエラで大成功を収める。ハンガリー国立歌劇場「ラ・ボエーム」ミミ、アスコリピチェーノ歌劇場（伊）およびフェニーチェ歌劇場（伊）の「蝶々夫人」のタイトルロールで注目を集め、同演目でアメリカデビューも果たす。国内では新国立劇場、二期会、藤原歌劇団、兵庫県立芸文センター、びわ湖ホール、愛知県芸術劇場等の数々のオペラ公演で主役を務める。チェコフィルハーモニー管弦楽団、ボリショイ劇場管弦楽団などオーケストラ公演のソリストとしても活躍。CD「恋のアランフェス」をリリース。これまで第10回グローバル東敦子賞、98年村松賞、98年度五島記念文化賞オペラ新人賞、リクルート・スカラシップ、ロームミュージックファンデーション・スカラシップ受賞、文化庁在外研修員等を受賞。二期会会員。日本声楽アカデミー会員。



笛田博昭 Hiroaki Fueda (テノール)

名古屋芸大卒業。同大学院修了。2003年「トゥーランドット」カラフ役でオペラデビュー。07年藤原歌劇団公演「ラ・ボエーム」ロドルフォ、上海国際芸術祭公演「蝶々夫人」ピンカートン、09年藤原歌劇団公演「ラ・ジョコンダ」エンツォ、10年藤沢市民オペラ「バリアッチ」カニオのほか、「カルメン」「トスカ」「椿姫」「アイダ」「マクベス」「ドン・カルロ」「リゴレット」など多くのオペラ作品の主要な役で活躍。12年イタリア・フェッラーラ歌劇場「イル・トロヴァトーレ」にマンリーコ役で出演。06年第37回イタリア声楽コンクール、イタリア大使杯、07年第9回マダム・バタフライ世界コンクール第1位、08年愛知県芸術文化選奨「文化新人賞」、09年第20回五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞。



黒田 博 Hiroshi Kuroda (バリトン)

京都市立芸大卒業。東京芸大大学院修了。89年より2年間イタリアに留学。99年新国立劇場「こうもり」ファルケ、2000年二期会「真夏の夜の夢」ディミトリウス、01年日韓合作オペラ「虎月傳」、バーンスタイン作曲「キャンディード」バングロスで注目を浴びる。「フィガロの結婚」「メリー・ウィドー」「エウゲニー・オネーギン」「蝶々夫人」など二期会、新国立劇場等による数多くのオペラで活躍。日生劇場40周年記念特別公演「ルル」でシェーン博士と切り裂きジャックの一人二役、04年新国立劇場・二期会共催「俊寛」また二期会「ドン・ジョヴァンニ」に主演、11年東京二期会・ラインドイツオペラ共同制作「ドン・ジョヴァンニ」に主演し絶賛される。03年度京

都市芸術新人賞受賞。国立音楽大学准教授。二期会会員。



牧野真由美 Mayumi Makino (メゾ・ソプラノ)

東京芸大卒業。同大学院修了。第3回藤沢オペラコンクール奨励賞、第30回イタリア声楽コンクルソ金賞受賞。オペラでは「カルメン」に主演のほか、「ウェルテル」シャルロット、「蝶々夫人」スズキ、「ジャンニ・スキッキ」ツイータ、「オテロ」エミリア、サントリーホールオペラ「ファルスタッフ」クイックリー夫人、同「フィガロの結婚」マルチェリーナ、藤原歌劇団「カルメル会修道女の対話」マリー、「ルチア」アリーサ、「セビリャの理髪師」ベルタなど多くの公演で好評を博す。小澤征爾指揮・サイトウキネンフェスティバル松本にソリストとして参加。「第九」「メサイア」「レクイエム」「復活」等のソリストとしても多数のコンサートに出演している。藤原歌劇団団員。



河原忠之 Tadayuki Kawahara (ピアノ)

国立音楽大学卒業。同大学大学院修了。1991年より渡伊。故アルド・プロットィ氏のもとオペラ伴奏ピアニストを務め数々の演奏会に出演。またマリア・カルボーネ

女史のもとでは伝統的なイタリアオペラの表現にとどまらず、発声法・ディクシオン等も取得。帰国後は、リサイタルのほかサイトウキネンフェスティバル等の多くのオペラ作品でコレペティトゥールとして活躍。2006年には大阪城ホールでの江原啓之「スピリチュアル・ヴォイス・カウントダウン」で大阪センチュリー交響楽団を指揮、指揮者としてもデビュー。08年NHKニューイヤーパーオペラコンサートにおいてブッチーニのピアノソロ曲を演奏し好評を博した。現在、東京藝術大学大学院、国立音楽大学及び大学院非常勤講師。



佐藤路子

京都市立芸術大学卒業。京都芸術祭にて京都府知事賞、なにわ芸術祭にて新人賞受賞。ABC新人コンサートオーディション合格。ノーヴィ国際音楽コンクール第1位。

「ジャンニ・スキッキ」ラウレッタ役でオペラデビュー後、「フィガロの結婚」伯爵夫人、「こうもり」ロザリンデ他、近年では栗山昌良氏演出によるオペラシアター「椿姫」ヴィオレッタ、兵庫県立芸術文化センター「ヘンゼルとグレーテル」露の精、日生劇場「オルフェオとエウリディーチェ」エウリディーチェ役等で好評を得る。パッハ「ヨハネ受難曲」、ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」等、宗教曲のソリストとしても活動している。びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー。



甘利 直花 Naoka Amari

2004年生まれ7歳。5歳より市民ミュージカルに出演。2011年に首都オペラ「ミニョン」、2012年に神奈川国際芸術フェスティバルオペラ世界初演「ハーメルンの

笛吹き男」に出演。



平成23年度いわて特産品コンクール岩手県知事賞受賞

ぴょんぴょん舎 自家製生マッコリ「セン」
<http://www.pyonpyonsya.co.jp>

注意・未成年者の飲酒は、法律で禁じられています。妊娠中および授乳期の飲酒は、お控えください